

## 「連合 2023 平和ヒロシマ集会」主催者代表挨拶

### 【冒頭お礼】

「連合 2023 平和ヒロシマ集会」に全国各地よりお集まりの皆さん、本当にありがとうございます。主催者を代表して、ご挨拶を申し上げます。

まずは、本日、公務ご多用のところ、ご来賓として広島県・副知事の玉井優子様、広島市・市民局長の村上慎一郎様に、ご臨席を賜っております。

また、国際労働組合総連合（I T U C）を代表して、昨年 of 定期大会で新たに会長に就任された、郷野晶子様にもご臨席をいただいております。

そして、原水禁とK A K K I Nの両団体におかれましては、日頃からの連携に加え、本集会にも共催団体として、参加・ご協力をいただきました。さらには、お手元のパンフレットにもありますように、広島県、広島市、平和首長会議をはじめ、今回も地元の研究機関や多くの皆様に、後援団体としてご参加いただいております。

連合の呼びかけにご賛同いただきました皆様に、主催者を代表して心より感謝を申し上げます。

### 【被爆について】

「せんせい、みず、みずをください。胸が苦しいんです。」

「お母さん、死にたくない。せっかく勉強していたのに。」

これは、78 年前、広島で被爆し、死を目の前にしたある女学生の言葉です。

1945 年 8 月 6 日、午前 8 時 15 分に広島、同じく 8 月 9 日、午前 11 時 2 分に長崎に、それぞれ原子爆弾が投下され、広島では 14 万人、長崎では 7 万 4 千人の尊い命が犠牲になりました。この悲劇を決して忘れてはなりません。原爆で亡くなられたすべての方に、心から哀悼の意を捧げるとともに、被爆の後遺症に今なお苦しんでおられる方々に、心よりお見舞いを申し上げます。

### 【連合の平和運動】

さて、私たち連合は、結成以来、核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現に向けて、取り組みを重ねてきました。

連合の平和行動は、6 月の沖縄を皮切りに、8 月の広島・長崎、9 月の北海道・根室へとリレーする運動を展開し、全国の構成組織、地方連合会の仲間とともに、平和であり続けることの大切さを訴え続けてきました。

### 【広島 of 平和行動】

原爆投下から 78 年が経過し、その悲劇を身をもって体験され、語ってくださる方々の高齢化が進んでいます。こうした現状を踏まえ、連合は、若い世代を中心に、戦争の歴史や知識、「語り部」の皆様の思いを継承するため、さまざまな取り組みを行ってきました。本集会においても、後ほど、広島県原爆被害者団体協議会理事長の箕牧智之様より、被爆体験をお話いただくことにしております。

また、今回も、地元・連合広島や中国ブロックの青年・女性委員会の皆さんがピースガイドを務める、ピース・ウォークや被爆路面電車乗車学習会を実施してきました。ご参加いただいた皆さんには、広島における被曝の実相を肌で感じるとともに、この間準備を重ねてきた若者たちの、真摯な取り組みと熱意を感じていただけたものと確信しております。

### 【核兵器をめぐる情勢・日本の役割】

現在、世界には 12,000 発以上の核弾頭が存在しています。

ロシアによるウクライナへの軍事侵略では、核兵器の使用をちらつかせる威嚇がなされ、北朝鮮では度重なるミサイルの発射が行われるなど、今なお私たちは核兵器の脅威にさらされています。

こうした中、本年 5 月、ここ被爆地・広島で開催された G 7 サミットでは、「核軍縮に関する G 7 首脳広島ビジョン」が発表されましたが、核兵器数の削減努力の継続を柱としているものの、「核兵器のない世界」の実現に向けた具体的な道筋は示されませんでした。核兵器による抑止力を事実上肯定したことは非常に残念だと言わざるを得ませんし、核威嚇をする為政者がいる中で、抑止論が成り立つとは到底思えません。

今回のサミットでは、核兵器保有国を含む各国首脳が、広島平和記念資料館を訪れました。各国首脳には、核兵器使用の恐怖と悲惨さ、実相を強く胸に刻むとともに、核兵器廃絶に向けたリーダーシップの発揮を強く求めます。

また、G 7 サミットに先立つ本年 4 月には、働く者の主張を G 7 サミットに反映させることを目的に、「L 7 サミット」が東京で開催されました。G 7 各国のナショナルセンターや I T U C、O E C D 労働組合諮問委員会（T U A C）などの代表が一堂に会し、L 7・2023 声明として、『G 7 首脳は、広島で会合することの象徴的な意義を念頭に置き、核兵器のない世界を追求する勇気を持たなければならない。』と表明し、サミットで議長を務めた岸田首相にも、要請を行いました。

日本政府には、唯一の戦争被爆国として、「核兵器のない世界」の実現に向け、核軍縮と核不拡散の強化に向けた外交努力を粘り強く続けるよう求めていると思います。

このあと、昨年に引き続き、地元広島の「中国新聞ヒロシマ平和メディアセンター」の水川恭輔様に、「G 7 サミットと広島」というテーマでご講演をいただくことになっています。ここ、被爆地・広島で開催された歴史的なサミットについて、様々な側面から学ぶ機会としていただけましたら幸いです。

### 【結び】

「核兵器は国家の安全保障の問題ではなく、人間の問題なのです」

これは、13 歳で被爆したサーロー節子さんの言葉です。

世界の核軍縮を進めるためには、抑止論ばかりでなく、人道的な観点から世論形成を進めていくことが極めて重要です。私たち一人ひとりが運動をけん引していく上で、核兵器の非人道性を決して忘れてはなりません。

私たち連合は、「平和首長会議」や I T U C、原水禁・K A K K I Nをはじめ核兵器廃絶を願う様々な団体とともに、国内外の世論喚起に向けて、活動をより一層強化してまいります。

誰もが心の底から願い続ける「核兵器廃絶」と「恒久平和の実現」に向け、ともに頑張りましょう。ありがとうございました。

以 上